

「人生(信仰)の確かな土台」

ヨハネの福音書7章24節

1

「うわべによって人をさばかないで、正しいさばきをなさい。」 ヨハネ7:24

2

当時の人々の信仰の土台

- 人々は、イエス様のなさったしるしを見て、「まことに、この方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。そこで、イエスは、人々が自分を王とするために、むりやりに連れて行くことしているのを知って、ただひとり、また山に退かれた。 ヨハネ6:14-15
- こういうわけで、弟子たちのうちの多くの者が離れ去って行き、もはやイエスとともに歩かなかった。 ヨハネ6:66

3

当時の人々の信仰の土台

- またある者は、「この方はキリストだ」と言った。またある者は言った。「まさか、キリストはガリラヤからは出ないだろう。キリストはダビデの子孫から、またダビデがいたベツレヘムの村から出る、と聖書が言っているではないか。」 ヨハネ7:41-42、マタイ2:1

4

当時の人々の信仰の土台

役人たちは答えた。「あの人と話すように話した人は、いまだかつてありません。」すると、パリサイ人が答えた。「おまえたちも惑わされているのか。議員とかパリサイ人のうちで、だれかイエスを信じた者があつたか。だが、律法を知らないこの群衆は、のろわれている。」彼らのうちのひとりで、イエスのもとに来たことのあるニコデモが彼らに言った。「私たちの律法では、まずその人から直接聞き、その人が何をしているのか知ったうえでなければ、判決を下さないのではないか。」彼らは答えて言った。「あなたもガリラヤの出身なのか。調べてみなさい。ガリラヤから預言者は起らない。」
高ぶり、思い込み、、、 ヨハネ7:46-52

5

恐れも栄光も

- しかし、ユダヤ人たちを恐れたため、イエスについて公然と語る者はひとりもいなかった。 ヨハネ7:13
- 彼の両親がこう言ったのは、ユダヤ人たちを恐れたからであつた。すでにユダヤ人たちはイエスをキリストであると告白する者があれば、その者を会堂から追放すると決めていたからである。 ヨハネ9:22

6

恐れも栄光も

- それでイエスを捕らえようとしたが、(祭司長たちとパリサイ人たちは)群衆を恐れた。群衆はイエスを預言者と認めていたからである。マタイ21:46
- 人々の信仰の土台は、主への恐れではなく、人への恐れ。

7

恐れも栄光も

- わたしは人からの栄誉は受けません。ヨハネ 5:41
- 互いの栄誉は受けても、唯一の神からの栄誉を求めないあなたがたは、どうして信じることができますか。5:44
- しかし、それにもかかわらず、指導者たちの中にもイエスを信じる者がたくさんいた。ただパリサイ人たちをはばかって、告白はしなかった。会堂から追放されないためであった。彼らは、神からの栄誉よりも、人の栄誉を愛したからである。12:42-43

8

人からの栄誉



9

イエス様の栄光



10

イエス様の信仰の土台

- イエスは彼らに言われた。「わたしを遣わした方のみこころを行い、そのみわざを成し遂げることが、わたしの食物です。ヨハネ4:34
- わたしを遣わした方はわたしとともにおられます。わたしをひとり残されることはありません。わたしがいつも、そのみこころにかなうことを行うからです。ヨハネ8:29
- それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかしわたしの願うようにではなく、あなたのみこころのように、なさってください。」 マタイ26:39

11

イエス様の信仰の土台

- 当時の人々は指導者たちを恐れ、指導者たちは群衆を恐れて行動した。イエス様は自分の十字架を負って(自分を捨てて)父に従っていた。(イエス様らしい生き方)
- イエス様の信仰の土台は、神の御心、みことば。父の臨在の中で一緒に生きられた。
- 「りんとして生きる」「りんで生きる」
- 再臨、臨在、君臨、神の臨在と君臨の中で「りん」として生きる！「りん」(ざいの中)で生きる！(再臨と臨在)

12